



草津市立草津小学校 学校だより

—学校教育目標—

確かな学力を身につけた

心豊かでたくましい 子どもの育成

なでしこ



令和4年(2022年)8月26日

No. 11

「安全」意識の維持・継続を大切にしていきます

校長 中村 真理子

二学期
スタート

36日間の夏休みが終わり、静まりかえていた学校に、子どもたちの元気な声が響き渡るようになりました。暑い日が続く、新型コロナウイルス感染症の拡大が心配された夏休みでしたが、特に大きな事故等もなく、みんなが充実した生活を送れたようです。あらためて、それぞれのご家庭におけるご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

さて、去る7月19日には、子どもたちの下校時間の頃に、草津市に大雨警報や洪水警報が発令されました。校区の通学路が冠水するなど、子どもたちの下校に際して細心の注意を払う必要があったため、本校の「学校防災マニュアル」に基づいて、市の関係各課と連絡を取り合いながら、保護者の皆様に緊急メールで、お迎えのお願いや、教職員引率による集団下校等について連絡させていただきました。

今日から始まった2学期は長丁場です。今後も、台風などの暴風雨等を心配しています。そこで、本日の始業式では、コロナ感染症対策に引き続き取り組むとともに、安全な生活を送ることもしっかり心がけてほしいと全校児童に向けて呼びかけました。



9月には市内一斉の「シェイクアウト訓練」に参加し、地震の際の避難行動を全校で確認し、練習する予定です。3学期には、総合防災訓練として無通告での避難訓練も行う予定をしています。子どもたちの安全を守るため、学校として右図の計画を策定しています。教職員も不測の事態が起きた時、迅速に落ち着いて行動できるよう、教職員研修を重ねています。




新型コロナウイルスの防止ばかりに意識が向きがちですが、健康管理だけでなく安全管理も忘れてはなりません。訓練を行ったときだけの安全意識の高まりにとどまることなく、維持・継続していくよう日頃からの目配りや声かけも含めて、子どもを取り巻く環境を安全に整えるよう努めていきます。

保護者や地域の方々にも日頃から子どもたちの登下校等の安全を支えていただいておりますが、安全対策の強化・徹底に向けて、これからもお力添えの程、よろしくお願いいたします。



草津小 子どもの「安全」に関する計画



計画	内容
1. 「学校防災マニュアル」 	① 消防・防災計画(防火・防災) ② 危機管理 (事故・災害発生時の救急体制) (けが・アレルギー対応の救急要請) (不審者等対応) ③ 地震の対応・避難所運営 ④ 弾道ミサイル発射時 ⑤ 大雨・台風襲来(水害)時
2. 「新しい学校生活ガイドライン (7月14日改定版)」	新型コロナウイルス感染症防止対策 
3. 「熱中症予防対策マニュアル」	熱中症防止対策 

【草津小 HP に、子どもたちの活動等を毎日更新中。「配付物」等も順次掲載しています。ぜひアクセスを!】



「何回も言っているのに、うちの子どもの理解力がない。私の言っていることが伝わらない。」
 「うちの子どもは、説明がへたで、言っていることがよくわからない。」
 「子ども自身が、言いたいことがうまく説明できないから、いつもイライラしている。」



などという話を、保護者の方から聞かせていただくことがあります。

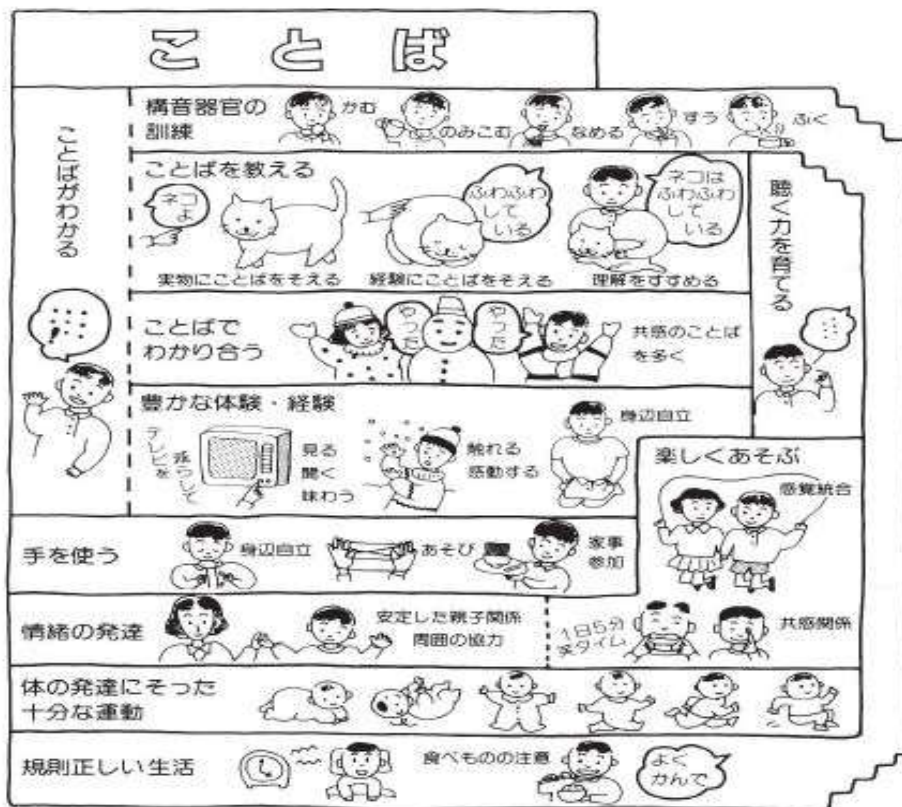
これらには、「ことばの力」が関係していますが、「ことばの力」を高めるにはどうすればいいでしょうか。私は、「ことば」は、人との関わりの中で育つと考えています。そこには、人と関わる力や自己肯定感なども関係しているのではないのでしょうか。

以前に、言語聴覚士 中川信子さんの著書を読んだ時に印象に残った『ことばのビル』(下図参照)を思い出しました。「ことば」が育つには順番があるということです。「最上階のことばを豊かなものにするために、その下の階(身体と心)をおろそかにしてはいけない」という内容でした。



私たち大人は、「ことば」を育てようと、「(声として出てくる)ことば」のみに着目しがちです。しかしながら、中川さんの著書によると、声として出てくる言語以前に、押さえるべきポイントがあるということです。「ことば」は、全体発達の反映であり、言語の理解は、声として出てくる言葉よりも先行するもの(「分かるのが先、言えるのは後」)であるから、毎日の生活で、豊かな体験を重ねる中で、自然に言語理解を進めることが大切だということでした。

つまり、「言えることば」を増やそうと教え込むのではなく、伝えたい気持ちをしっかり育てるのが先決であること、そのために周りの大人がよい聞き手、上手な遊び相手になることが大事であるということではないのでしょうか。子どもの話を、「そう思ったんだね。」と聞く姿勢の積み重ねが、子どもの意思を育て、表現する姿へと変化させます。これは、「考えるスイッチを押す」ことにもなるそうです。時間はかかるかもしれませんが、子どもが考える時間を、私たち大人は大切にしていきたいものです。



著者 中川信子 「ことばの選い子」より 図「ことばのビル」ぶどう社